

# ブルガリア月報 [2018年2月]

平成30年3月  
在ブルガリア日本国大使館

## 概観

### 【二国間関係】

- ・19日～24日、ドンチェフ副首相が訪日した。

### 【内政・社会】

- ・14日、ボリソフ首相は民放局「bTV」の番組内で、内政・外政の各種課題（イスタンブール条約、ラデフ大統領との関係等）に関するインタビューに答えた。
- ・15日、上記ボリソフ首相のインタビューが発端となり、再びラデフ大統領とボリソフ首相との間でメディアを通じた非難の応酬が行われた。
- ・21日、第44回国民議会は、ヴァレリ・ジャブリヤノフBSP議員の副議長解任を可決した。

### 【外 政】

- ・6日、ルッテ首相がブルガリアを訪問し、ボリソフ首相と会談した。ルッテ首相はブルガリアのシェンゲン領域参加を支持するとしたものの、参加のためにはまだ課題があると述べた。
- ・15日～16日、EU議長国を務めるブルガリアにおいて、EU非公式外務理事会（Gymnich）が開催され、シリア、西バルカン及び北朝鮮についての協議が行われた。
- ・16日～17日、ラデフ大統領は、ブルガリア・マケドニア善隣友好条約の署名以降、初めてマケドニアを訪問し、イヴァノフ・マケドニア大統領、ザーエフ・マケドニア首相等と会談した。

### 【経 済】

- ・20日の報道によれば、2017年の対内直接投資は16年比で36.7%増となったことが明らかとなった。進出済み企業の投資拡大が主な要因であると考えられている。
- ・23日、CEZ社はブルガリア配電事業をパザルジックに本社があるイナーコム社に売却することを決定した。これに関連し、24日、ペトコヴァ・エネルギー大臣は、同社オーナーが同大臣の20年来の友人であり、同社への売却にかかる不正な影響を及ぼしたとの疑念を払拭するため辞表を提出した。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

## 二国間関係

### ◆ドンチェフ副首相の訪日

▶19日～24日にかけて、日本政府の招待によりドンチェフ副首相が訪日した。ドンチェフ副首相は、河野外務大臣、世耕経済産業大臣、松山科学技術担当大臣、野上官房副長官等の政府関係者

と会談を行った他、衆議院・参議院友好議連との交流、ビジネスセミナーへの出席、経団連、JETROを含む経済関係者との会談を実施した。

▶河野外務大臣との会談では、1月の安倍総理の欧州訪問の際に発表された「西バルカン協カイニシアチブ」に基づき、対西バルカン支援の文脈で

のブルガリアとの協力について協議された他、両国の経済関係の更なる発展や北朝鮮問題に関する緊密な連携等が協議された。

## 内政・社会

### 1. 政治

#### ◆ボリソフ首相インタビュー

▶14日、ボリソフ首相は民放テレビ局「bTV」のインタビュー番組に出演し、内政・外政の各種課題（イスタンブール条約、ラデフ大統領との関係等）に関する質問に答えた。

▶イスタンブール条約について、ボリソフ首相は、国民のコンセンサスが得られるまで批准しないと述べた。一方で、連立与党である「統一愛国者」が提案する同性婚等に関する国民投票の実施については、投票の結果は否決と判り切っており、実施は無意味と述べ、そもそも同性婚の合法化に関する議論は現在どこにも存在しないと述べた。

▶ラデフ大統領との関係について、ボリソフ首相は、ラデフ大統領自身との関係は良好であると述べた上で、大統領スピーチの執筆者であるフリストフ大統領官房長が影で大統領を操っている旨を発言。また、ボリソフ首相は、フリストフ官房長が、かつてペーエフスキ「権利と自由のための運動(MRF)」議員がオーナーを務めていたケーブルテレビ局に務めていたと述べ、官房長とペーエフスキ議員との繋がりを示唆した。

▶その他、ボリソフ首相は、3月末にヴァルナで予定されるEUトルコ首脳会談について、関係国の参加を可能ならしめる適切なホスト（ボリソフ首相）がいて初めて実現可能な会合であると述べ、ブルガリア・トルコ間の信頼関係がある今が、EU・トルコ間の関係正常化のタイミングであると述べた。

#### ◆ラデフ大統領とボリソフ首相間の緊張関係

▶ボリソフ首相によるbTVインタビュー（上記）の翌15日、同インタビューにおけるボリソフ首相の発言を巡り、ラデフ大統領とボリソフ首相との間で、メディアを通じた激しい非難の応酬が行

われた。

▶ラデフ大統領は、記者団に対し、ボリソフ首相が前日のインタビューの中で、ラデフ大統領の右腕とされるフリストフ大統領府官房長とペーエフスキMRF議員との関係を示唆する発言を行ったことに対し、悪意に満ちた誘導であると述べ、ボリソフ首相こそドガンMRF創設者やペーエフスキ議員との癒着があるのではないかと強く非難した。

▶これに対し、同日、ボリソフ首相は、自身とドガンMRF創設者等との癒着を否定し、逆に、ラデフ大統領はその大統領選出馬に際して如何にしてMRF支持者の票を獲得したのか等と反論。また、前日のインタビューでは、ラデフ大統領に友好的言葉こそ投げかけたものの、まさか大統領からこのような非難を返されるとは思いも寄らなかったと述べ、ラデフ大統領との関係悪化を是非とも避けたかったが、ここまで来てしまったのは自分のせいではない等と述べた。

#### ◆BSP 梓国民議会副議長の解任

▶21日、第44回国議会は、ヴァレリ・ジャブリヤノフBSP議員の副議長解任を可決した。同決定は、ジャブリヤノフ議員の「国民裁判（※）は必要不可欠かつ不可避の正義であった」とする発言が引き金となったもの。

（※1944年ー1945年に行われた特別裁判。同裁判は、第二次世界大戦への参戦に関する責任者の罪を追及する名目で設置されたが、44年以降の体制の反対派を一掃するための裁判であったとも言われている。同裁判による逮捕者は約3万人、死刑宣告を受けた者は約3,000人に上ると言われている。）

▶ジャブリヤノフ議員の副議長職解任の動議は、GERB及び「統一愛国者」により提出され、投票の結果、賛成110票、反対71票で可決された。

▶GERB及び「統一愛国者」は、ジャブリヤノフ議員の副議長職解任の理由として、同議員の、上記国民裁判に関する発言、2月1日の共産主義

の犠牲者追悼の日に捧げられた黙禱に対する妨害行為、そして同議員によるマケドニアとの善隣友好条約批准への反対といった行為による、国民議会規則155条にある議会の権威を確保する義務への違反を挙げた。

▶国民議会副議長は、各議会勢力の代表者から成る（今次国民議会においては5名）が、BSPは後任を任命せず、本件を欧州人権裁判所及び憲法裁判所に提訴すると述べている。

## 2. 統計

### ◆「24チャーサ」紙による世論調査結果

▶2月20日付当地日刊紙「24チャーサ」が発表した世論調査会社「TREND」による世論調査結果は以下のとおり（調査期間：2018年2月1日～8日、調査対象：1004人）。

▶なお、イスタンブール条約に関する設問からは、同条約を支持する国民は16%に留まるも、同条約に関する各政党の立場や議論は、それら政治勢力に対する支持率に影響を与えなかったことが示された。

#### 1 イスタンブール条約批准への支持率

支持	16%
不支持	46%
わからない	38%

#### 2 政党支持率

（今議会選挙が行われたらいずれの党に投票するかとの問いに対する回答）

（1）議会内勢力（括弧内は昨年12月時点の支持率）

GERB 20.7%（22.2%）

BSP 18.2%（18%）

権利と自由のための運動（MRF）6.4%（6%）

統一愛国者 5.2%（5.2%）

ヴォリヤ 1.5%（1.6%）

（2）議会外勢力

RB 1.2%（1.9%）

Yes, ブルガリア 1.5%（1.5%）

強いブルガリアのための民主主義者 1%

（1.1%）

（3）その他

投票しない 37.8%（37.4%）

#### 3 国家機関別支持率

（1）国民議会

支持 27% 不支持 61%

（2）政府

支持 33% 不支持 54%

（3）大統領

支持 63% 不支持 22%

（4）裁判所

支持 19% 不支持 63%

（5）オンブズマン

支持 62% 不支持 17%

#### 2 閣僚別支持率（上位7名）

（1）ボリソフ首相

支持 45% 不支持 51%

（2）カラカチャノフ国防大臣（統一愛国者）

支持 42% 不支持 38%

（3）ドンチェフ副首相

支持 36% 不支持 34%

（4）パヴロヴァEU議長国担当大臣

支持 36% 不支持 43%

（5）クラレフ青年スポーツ大臣

支持 30% 不支持 28%

（6）ザハリエヴァ副首相兼外務大臣

支持 29% 不支持 35%

（7）シメオノフ副首相

支持 27% 不支持 54%

## 外政

### 1. 対EU関係

#### ◆欧州委員会の「西バルカン戦略」に関するボリソフ首相の発言

▶6日、ボリソフ首相は、欧州委員会による西バルカン戦略の発表を受け、同戦略を歓迎する旨をプレスリリースにて発表した。また、大統領府及び外務省も歓迎の意向を示すプレスリリースを発

出した。

#### ◆非公式EU外務理事会の開催

▶15日ー16日、ソフィアにおいてEU非公式外務理事会（Gymnich）が開催された。ザハリエヴァ副首相兼外務大臣がホストを務め、シリア、西バルカン及び北朝鮮に関する議題について議論が行われた。また、加盟候補国との間で、安全保障及び防衛分野における協力及びパートナーシップの強化についての協議も行われた。

▶シリアに関する議論の焦点は、4月25日ー26日にEUがブリュッセルで開催するシリア及び周辺地域に関する会合を含む、紛争の解決へ向けたEUの貢献であった。出席者は、国連及びデミストウラ国連特使が紛争解決へ向けた主要な役割を担うとの認識の下、紛争解決のための全ての努力はその活動を支援することへ向けられることが重要である旨強調した。

▶西バルカンについては、欧州委員会が6日に発表した「西バルカン戦略」について協議した。ザハリエヴァ大臣は、包括的な同戦略を歓迎し、西バルカン地域の安全保障強化の重要性、同戦略で言及された（西バルカン諸国による）必要な各種基準の明確な達成と資金割当の可能性、EU加盟前における各種課題の解決、善隣関係及び地域協力の推進、加盟候補国のEU共通外交政策及びEU共通安全保障政策に関する各種立場の調整について言及した。更に同大臣は、5月にソフィアで開催されるEU・西バルカン首脳会合の重要性を強調した。

▶北朝鮮についての協議では、北朝鮮と韓国との関係正常化へ向けた流れがオリンピック終了後も継続することが重要であるとされた。EUは、各種制限及び外交的努力により北朝鮮への圧力を継続することが確かめられ、26日に開催される外務理事会でも協議されることが確認された。

#### ◆共通外交・安全保障政策及び共通保安防衛政策に関する議会間会議の開催

▶15日ー17日、ソフィアにおいて共通外交・

安全保障政策（CFSP）及び共通保安防衛政策（CSDP）に関する議会間会議が開催され、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣が出席した。

▶ザハリエヴァ大臣は、欧州委員会の西バルカン戦略は、改革を促進し、西バルカン諸国の欧州への展望を強化するための良いプラットフォームを提供するものであると述べ、同戦略は、必要不可欠な改革を促進し、EUへの道を不可逆的なものにするとした。

▶同大臣は、ブルガリアは、西バルカン諸国をEUの戦略的議題とするために多大な努力を行ってきており、それ故、欧州委員会の西バルカン戦略を期待を持って待っていたとし、発表された同戦略は、我々の期待に応えるものであると述べた。

▶同大臣は、同戦略が西バルカン6か国全てを対象としていることが重要であり、ブルガリアはこれが正しい道と考える述べた。また同大臣は、ブルガリアがEU議長国として、道路・鉄道、エネルギー、デジタル、ビジネス等のあらゆる分野における西バルカン諸国の連結性に焦点を当てていることに言及した。

## 2. 対バルカン諸国関係

#### ◆ラデフ大統領のマケドニア訪問

▶16日ー17日、ラデフ大統領は、イヴァノフ・マケドニア大統領の招請により、マケドニアを公式訪問し、イヴァノフ大統領、ザーエフ・マケドニア首相、ジャフェリ・マケドニア国会議長等とそれぞれ会談した。ブルガリア・マケドニア善隣友好条約署名後、ラデフ大統領のマケドニア訪問は今回が初めて。

▶イヴァノフ大統領との会談後の共同会見で、ラデフ大統領は、善隣友好条約が一回きりのものでなく、これがはじまりとなって協力プロセスの一層の発展が不可逆的なものになることを願うと述べた。両大統領は、貿易及び観光の伸長に表れているように、積極的な政治対話のおかげで二国間関係は順調に発展しているとの認識で一致した。

▶ザーエフ首相は、ラデフ大統領に対し、ブルガリア大統領のスコピエ訪問は、良好な二国間関係

の証左であるとし、ブルガリアによるマケドニアの欧州統合プロセスの支持、及びブルガリアEU議長国が優先事項に西バルカン諸国を掲げたことに謝意を表明した。

#### ◆ブチッチ・セルビア大統領のブルガリア訪問

▶23日、ブチッチ・セルビア大統領はラデフ大統領の招請によりブルガリアを訪問し、同大統領及びザハリエヴァ副首相兼外務大臣とそれぞれ会談した。

▶会談後の共同会見でラデフ大統領は、マイノリティを考慮したセルビア国内法の修正、及び中央政府レベルでの取組みに対する謝意を表明し、これらの進捗が地方レベルで具体的成果を生むためには、より一層の努力を必要とすると述べた。

▶ラデフ大統領は、投資の欠如、低就業率、保健・福祉サービス及び教育の不足、母国語によるメディア放送へのアクセスの悪さ等、セルビアのブルガリア人マイノリティ居住地域が抱える問題について議論したと明かした。また同大統領は、ブチッチ大統領によるブルガリア語メディア媒体の欠如に関する問題に対する積極的関与に謝意を表明した。

▶ブチッチ大統領は、ラデフ大統領との間で、セルビアにおけるブルガリア人マイノリティ問題、特にディミトロフグラッド及びボシレグラッドの自治体における同問題について細大もろさず議論し、問題解決のための具体的アイデアを共有したと述べた。ラデフ大統領はブチッチ大統領の招請でセルビアを訪問する際に、ブルガリア人マイノリティ居住地域を共に視察すると述べた。

▶ラデフ大統領は、セルビアとコソボが対話を通じて平和的な解決を模索することを呼びかけ、ベオグラッドとプリシュティナとの対話を高く評価していると述べた。ブチッチ大統領は、この問題はEU加盟への道のりの中で最大のハードルであるとし、プリシュティナとの対話は長くかかると述べた。

▶今次訪問の際に、両国の各2省庁間で3つの覚

書が署名された。(1) 鉄道交通の効率改善に関するMOU、(2) 液化天然ガス輸送・貯蔵のためのドナウ川港インフラの発展に関する覚書、(3) 労働、雇用、障害者の社会適合及び幼児発育分野における知見交換促進に関するMOU。

#### 3. 対トルコ関係

##### ◆ボリスフ首相とチャヴシュオール・トルコ首相との会談

▶16日、ミュンヘン安全保障会合に出席していたボリスフ首相は、ユルドゥルム・トルコ首相と会談した。

▶会談の主要議題は地域のインフラプロジェクトであった。ボリスフ首相は、欧州内の連結性を確保する第4、8、及び第10回廊の重要性を強調した。同首相は、新たなフェンスではなく、インフラ、教育及び文化にこそ予算をかけることを呼びかけ、鉄道、高速道路、及びデジタルインフラの建設も同時並行で行われるべきであると述べた。

▶ユルドゥルム首相は、インフラの改善は欧州基準に則って行われるとし、その観点からのブルガリアの成功は見事であると述べた。また同首相は、カピクレ・イスタンブール間のインフラは現在建設中であるとし、同インフラが完成すれば、中国からロンドンまで横断することが可能になり、ブルガリアを経由してトルコへと通じる大変近代的なインフラができることになると述べた。

▶両首相は、移民・難民危機についても協議し、両国政府の良好な協力関係を強調した。また、3月にブルガリアのヴァルナで開催予定のEU・トルコ首脳会談の準備状況についても協議した。

#### 4. 二国間外交

##### ◆ルッテ蘭首相のブルガリア訪問

▶6日、ルッテ蘭首相はブルガリアを訪問し、ボリスフ首相と会談した。

▶ルッテ蘭首相のブルガリア訪問の目的は、ブルガリアEU議長国期間中のEUの主要課題について議論することであり、会談では、移民・難民問題、単一市場、単一デジタル市場、西バルカン諸

国の欧州統合、EU近隣大国との関係等が議論された。ルッテ蘭首相は、ブルガリアは欧州の将来について大変重要な役割を担っていると評価した。

▶ルッテ蘭首相は、ボリスフ首相はリーダーシップに大変長けており、ブルガリアをより一層の繁栄に導くだろうと述べた。同首相は、ブルガリアの良好なマクロ経済指標に言及しつつ、ブルガリアは正しい道を進んでおり、ユーロ圏加入まであと少しであろうとの見方を示した。また同首相は、ブルガリアのシェンゲン領域参加を支持するとし、ボリスフ首相による努力を賞賛しつつ、同領域に参加するためにはもう少し課題をクリアする必要があると述べた。更に、ボリスフ首相によるバルカン地域の安定への貢献を強調し、ブルガリアがバルカン地域及びトルコと良好な関係を維持していることは大変重要であるとした。

▶ボリスフ首相は、我々がEU域外国境を良く管理していることは明らかであり、今や問題はないとした。また、同首相は、ブルガリアは協力・検証メカニズム（CVM）を終えるであろうとし、今後数か月間も順調に前進し、オランダ国会に良いシグナルを送りたいと述べた。

#### ◆ラデフ大統領のアルメニア訪問

▶12日、ラデフ大統領はアルメニアを訪問し、サルグシャン・アルメニア大統領と会談した。主要議題は、経済、投資、技術、教育及び観光分野におけるブルガリアとアルメニアの二国間交流の促進であった。

▶両大統領は、機密情報の相互保全・交換に関する二国間協定、2019年までの文化協力プログラム、労働移民の規則に関する協定、及びICT分野の協力協定に署名した。

▶ラデフ大統領は、ブルガリアEU議長国の優先事項は西バルカン諸国の欧州統合であるが、ブルガリアはEUの東方パートナーシップにも注力すると述べた。

▶ラデフ大統領は、ナゴルノ・カラバフ問題に関して、この紛争は、OSCEミンスク・グループ及び共同議長国であるロシア、フランス、米国の仲

介、及びEUの協力を介して平和的交渉によって解決されるべきであるとし、アルメニア及びアゼルバイジャンの国家元首間の積極的対話による交渉が大変重要であると述べた。

#### ◆コレイア・カーボヴェルデ首相のブルガリア訪問

▶19日、コレイア・カーボヴェルデ首相はブルガリアを訪問し、ボリスフ首相と会談し、ラデフ大統領を表敬訪問した。

▶両首相は、教育及び経済における協力促進の可能性について意見を交換した。ボリスフ首相はカーボヴェルデとEUとの緊密な関係に言及し、カーボヴェルデにおける民主主義の発展に敬意を表した。コレイア首相は、カーボヴェルデは教育、観光及び経済分野での協力をオープンであると述べた。

#### ◆オルバーン・ハンガリー首相のブルガリア訪問

▶19日、オルバーン・ハンガリー首相はブルガリアを訪問し、ボリスフ首相と会談した。会談時、オルバーン首相は、EUによる新たな移民政策に関する対案をボリスフ首相に手交した。

▶オルバーン首相は、移民は、我々の生活及び欧州のキリスト教文化にとって危険であると述べ、EU加盟国間における移民・難民の割当導入に反対する姿勢を示した。同首相は、ブルガリアEU議長国期間中に、ハンガリーが提案する移民政策に関する対案を議論するよう求め、EUは、移民割当ではなく、国境管理に集中すべきであると述べた。オルバーン首相は、ブルガリアによるEU域外国境管理は賞賛に値するとし、ブルガリアのシェンゲン領域参加への支持を表明した。

▶ボリスフ首相は、移民・難民の割当に関する部分を除き、オルバーン首相による各種提案を支持した。ボリスフ首相は、移民・難民の義務的割当についてブルガリアはハンガリーとは逆の見方をしているとし、EU外縁に位置するブルガリアに何百万もの移民・難民が押し寄せたらどうなるの

か、すべての移民・難民をブルガリアが受け入れなくてはならないのかとの疑問を呈した。同首相によれば、EU域外国境が完全に閉ざされ、同時にEU域外に移民・難民のためのホットスポットが確保されれば、この割当問題について改めてEUで議論できるようになるとのことである。

▶オルバーン首相は、移民・難民問題への貢献につながるブルガリアとトルコとの善隣関係について賞賛の意を表明した。また同首相は、5月のEU・西バルカン首脳会合において、セルビア及びモンテネグロのEU加盟時期が提示されるべきであると述べた。

#### ◆ジュベイル・サウジアラビア外務大臣のブルガリア訪問

▶21日、ジュベイル・サウジアラビア外務大臣はブルガリアを訪問し、ボリスフ首相及びザハリエヴァ副首相兼外務大臣とそれぞれ会談し、ラデフ大統領を表敬訪問した。

▶ボリスフ首相は、二国間関係発展へのサウジアラビアの意志は、閣僚訪問によく表れているとし、敬意を表した。また同首相は、ブルガリアはすでにブルガリアの経済・投資環境データ及び投資計画に関する提案をサウジアラビアに送っていると明かした。同首相によれば、二国間協力のポテンシャルがある分野は、農業、ビジネスパーク、産業地区、インフラ、観光及び交通である。また同首相は、ムハンマド・サウジアラビア皇太子のブルガリア訪問への期待を表明した。

▶ザハリエヴァ大臣は、共同会見において、サウジアラビアは経済、投資、安全保障、及びテロ・過激化対策において重要なパートナーであると述べ、今後、インフラ建設、IT、ハイテク、農業、エネルギー及びロボット工学分野において協力していくと述べた。

▶ジュベイル大臣は、共同会見において、今次訪問は、ブルガリアにおける初のサウジアラビア外務大臣訪問であり、二国間関係の発展について話し合う良い機会であったと同時に、グローバルな課題についての協力も話し合ったと述べた。

#### ◆ザリーフ・イラン外務大臣のブルガリア訪問

▶28日、ザリーフ・イラン外務大臣はブルガリアを訪問し、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣と会談し、ラデフ大統領を表敬訪問した。

▶外相会談の主要議題は、二国間関係及び共同経済プロジェクトに関するポテンシャルであった。両大臣は、貿易増大、民間企業連携促進、観光客増大、及びエネルギー分野の可能性について協議し、観光分野における共同委員会を創設することで一致した。ザリーフ外務大臣の今次訪問には、31人の企業代表が同行した。

▶両大臣は、テロ対策及び中東情勢についても話し合った。また、核合意について、ザハリエヴァ大臣は、ブルガリア及びEU加盟国は核合意について明確な立場を持っており、それは変わることはないとし、すべての国が合意を遵守するべきであると強調した。

▶ザリーフ大臣は、ボリスフ首相のサウジアラビア訪問時にイランが領空通過を許可しなかった件を報道陣に問われ、イランはボリスフ首相を友人と考え敬意を払っており、領空通過拒否は技術的問題であったと述べた。

#### 5. その他

#### ◆ボリスフ首相のミュンヘン安全保障会合への出席

▶15日、ボリスフ首相はミュンヘン安全保障会合に出席し、オープニングのスピーチにおいて、以下のように述べた。

▶ブルガリア・トルコ間の国境以上に良く管理されている国境はない。ブルガリアは、自国のみならず、欧州の安全保障上の観点から、国境管理に尽力している。ブルガリアは、非常に忠実で規則正しい国であり、マーストリヒト基準を厳格に守っている。長年にわたり同基準を遵守してきたことに鑑みて、ブルガリアはユーロ圏加入及びシェンゲン領域参加を認められるべきである。

▶ブルガリアEU議長国は、西バルカンに関する議論に焦点を当てる点だけでなく、EU及び近隣

の重要な国々との関係への対応の点でも良い機会である。インフラ面では、第4、8、9、10回廊はすぐにでも着手されるべきであり、デジタルインフラについても同様である。過去に何度も紛争が起こったバルカン諸国の解決への道は、NATO及びEUへの迅速な統合である。

## 経 済

### 1. マクロ経済

#### ◆ブルガリアの労働者不足

▶2日付、スタンダルト紙によるブルガリア投資協会のダネフ総裁のインタビュー記事によると、ブルガリアでは20万人程度の労働者が不足しており、これが外国投資流入の大きな障害となっていると明らかにした。同総裁は、もし効果的な電子政府システムが導入されれば、13万2千人の政府部門の多くと、安全保障部門の大半は不要となり、経済部門での雇用が可能となるとしている。

#### ◆17年第4四半期平均月収は1095レヴァ

▶13日の国家統計局の発表によれば、2017年第4四半期の平均月収は、第3四半期より5.6%増加して1095レヴァとなったことが明らかとなった。増加幅が大きい順で、教育分野は19.2%、不動産分野は7.7%、その他サービス業は6.2%の増加となった。

▶17年第4四半期で、最も平均月収の高い分野はIT(2448レヴァ)であり、次いで電気、ガス、冷暖房分野(1808レヴァ)、金融分野(1783レヴァ)であり、低い分野はホテル・レストラン分野(647レヴァ)、その他サービス業(789レヴァ)、建設部門(847レヴァ)であった。

#### ◆17年対内直接投資は前年比36.7%増

▶20日の報道によれば、ブルガリア国営銀行(中央銀行)は、2017年の対内直接投資が9億190万ユーロに上ったことを発表し、これは2016年より36.7%増となったことを明らかにした。2017年の対内投資の半分以上は債券等

▶EU・トルコ関係の重要性は言及するまでもない。欧州は、NATOの南端の防御をトルコに頼っている。それ故、EUがトルコとの関係改善を決定したことを喜ばしく思う。移民・難民問題だけでなく、NATO内の協力の点からも重要である。

により行われており、これは進出済みの外国企業による投資拡大が行われたためとみられている。

▶最も投資がなされたのは貿易分野であり、3億ユーロに迫る勢いであった(2016年は1億9200万ユーロ)。ブルガリアに投資を行っている外国としてはオランダが8億7570万ユーロ(純投資額)と最も多く、EU外からの投資がオランダを経由するケースが多いようである。

### 2. 経済政策、産業

#### (1) エネルギー関連

#### ◆アゼルバイジャンからの南ガス回廊に関する諮問委員会

▶15日、エネルギー省プレスリリースにて、ペトコヴァ・エネルギー大臣は、アゼルバイジャンを訪問し、第4回南ガス回廊に関する諮問委員会に出席したと発表した。

▶同大臣は、委員会会合でブルガリアはEU議長国として南ガス回廊を欧州のエネルギー安全保障を確保するものとして支持するとしつつ、ブルガリアとしても天然ガス供給源の多様化に資する優先プロジェクトと認識しているとした。また同大臣はギリシャ・ブルガリア間の相互接続管建設案件が進んでいることを紹介し、2020年には完成するとした。

▶欧州委員会のセフコビッチ・エネルギー担当副委員長は、ギリシャ・ブルガリアの相互接続管が南ガス回廊の不可分の一体であることを認識しつつ、天然ガスの供給源多様化と南欧州への供給において重要であるとの認識を示した。

▶またペトコヴァ大臣は、アゼルバイジャンのシャバゾフ・エネルギー担当大臣と面会し、天然ガス供給を行うアゼルバイジャン国営石油会社(S

OCAR)による戦略的な協力について感謝した。

#### ◆ベレネ原発の将来に関する公開討論会

▶20日に開催されたエネルギー及び鉱物資源に関する公開ビジネスフォーラムで、各専門家によりベレネ原発の将来に関する議論が行われた。ブルガリア科学アカデミーは政府より委託された報告書において、105億ユーロの資金があることを前提にベレネ原発の建設は可能であることが指摘された。資金は7対3の割合で融資と自己資金が必要であるとされている。

▶今次公開フォーラムのヒノブスキ議長は、新たな原発はすべて既存の原子力発電所内に建設すべきであるとしており、ベレネ原発のためにアトムストロイ・エクスポート社から購入した原子炉2基は、既存のコズロドゥイ原発の5号基及び6号基の更新のために使われるべきであるとした。資金については1基の更新で50億ユーロ、2基で91億ユーロが見積もられたが、ベレネ原発を新規で建設するより安価であるとコメントした。

▶原子力規制庁のカスチェフ前長官は、新規原発の建設より、既存原発の更新を行う方が良いが、いずれにしても現在主力となっている石炭火力発電所は、近年のEUによる厳しい環境規制にもかかわらず、引き続き主要な発電源であるべきであるとした。イヴァン・コストフ・リスク分析管理センター所長（元首相）は、ブルガリア科学アカデミーの報告書を批判し、新規の原発建設は電力の国内需要の観点でも輸出可能性の観点でも正当化されるべきでなく、そもそもアカデミーの成長予測は非現実的であるとした。

#### ◆電力価格高騰に対する抗議活動

▶22日の報道によれば、ブルガリア雇用者協会は21日のボリスフ首相、ゴラノフ財務大臣、ペトコヴァ・エネルギー大臣等との会談を受けて、今後予定していた電力価格高騰に対する全国レベルの抗議活動を一旦取り下げる旨明らかにした。

#### ◆CEZ社の売却とペトコヴァ・エネルギー

#### 大臣辞表提出の動き

▶23日、ブルガリア西部で配電事業を行うCEZ社（チェコ系）のグループ企業7社は、ブルガリア南部の小都市パザルジックの電力関連企業であるイナーコム社に全事業を売却することを取締役会で決定し、今後数日以内に契約が締結されることになった。22日に開催された国民議会エネルギー委員会に出席したペトコヴァ大臣は、ブルガリア政府として本件売却に関与するつもりはない旨明らかにしつつ、実際の売却に際して、競争保護委員会や金融規制委員会、エネルギー・水規制委員会の認可が必要であると確認した。

▶その後23日夕刻になり、ペトコヴァ大臣は、イナーコム社のオーナーであるブルバコヴァ氏が同大臣の20年来の友人であったことを明らかにし、本件売却に際して何らかの影響や介入があったとの疑念があるのであれば辞任したいとして、辞表を提出した。ブラッセル訪問中のボリスフ首相は、政府が私企業間の取引に関わっているとの疑念は晴らす必要があるとした。またボリスフ首相は、国家安全保障庁と歳入庁に本件売却を巡る動きについて調査するよう命じている。

▶本件売却金額は明らかにされていないが3億2千万ユーロは下らないとみられている。ブルバコヴァ氏はイナーコム社による買収が何らかの利益を隠すためのものであることを否定したが、買収にかかる資金の出所は明らかにしていない。

▶また28日の報道では、チェコ国内の報道を引用し、イナーコム社の今次買収にかかる資金として、自己資金、銀行による保証、オフショアファンドによる融資を組み合わせるとしており、そのうちユニクレジット・ブルガリア銀行（1億8千万ユーロ）とファースト・インベストメント銀行（8千万ユーロ）が併せて2億6千万ユーロを提供し、残りを拠出するのはブルガリア開発銀行（欧州復興開発銀行による資金）や、ロシア系ジョージア人の富豪であるガムゴエイシヴィリ氏が関わるファンドであるとされている。27日、ボリスフ首相はチェコのバビシュ首相に対し、チェコ政府が63%を所有するCEZのブルガリアにおけ

る事業売却に関する情報を提供するよう要請し、併せて今回の売却について懸念を表明した。

## (2) 運輸

### ◆ブルガリア西部の鉄道近代化

▶1日、欧州委員会はEU結束基金から4億7150万ユーロを支出し、ブルガリア西部のエリンペリンからコステネツ間の鉄道近代化に利用する旨を発表した。当該区間は、ソフィアとプロブディフ間の鉄道高速化計画の一部となっており、欧州運輸ネットワークとしてのオリエント／東地中海回廊の一部にもなっている。クレトゥEU地域政策担当委員は、乗客と貨物にとって継ぎ目のない鉄道ネットワークが、ブルガリアの地域発展と低炭素社会に資することになるとした。

▶ソフィアとプロブディフ間の鉄道計画については、2007年から13年のEU基金においてもセプテンブリとプロブディフ間の建設のための1億ユーロが支出されており、またコステネツとセプテンブリ間については現在コネクティング・ヨーロッパ基金から1億5150万ユーロの資金が充当されている。ソフィアとプロブディフ間が全通すれば、乗客は160キロの早さにより80分で旅行できるようになる見込みである。

### ◆ブルガリア・トルコ間の鉄道輸送協力

▶12日、トルコ国鉄のアペイディン代表はブルガリアを訪問、ブルガリアの国鉄インフラ公社と協議し、鉄道サービス向上と乗客及び貨物の増加を目指すことで一致した。また両国の代表者はプロブディフのインターモダル・ターミナルを視察し、両国のインターモダル輸送における協力をすることとなった。

▶またカピクレ（トルコ）及びスヴィレングラッド（ブルガリア）間の国境輸送円滑化について両国で作業部会を設置することになった。今後は橋やトンネルの建設の可能性を検討しつつ、トルコ側はイスタンブールからベオグラードまでの鉄道旅客輸送の必要性について検討することとなった。

### ◆ルセ・ジュルジュ（ルーマニア）国際橋の通行量増加

▶15日の報道によると、ルセとルーマニアのジュルジュ間を結ぶ橋のトラック通行量が2007年のEU加盟後4倍となったことが明らかとなった。両国がEUに加盟する前は、通行量は1日に双方向で500台程度であったが、現在はもっとも混雑する時期で1800台から2000台となっている。なお世界銀行の分析によると、同橋のトラック通行量の限界は1時間で50台、1日に1200台となっている。

▶一般車両の通行も増加しており、昨年同橋でルーマニアに渡航した94万3506台のうち、一般車両は64万6572台であり、昨年、ルーマニア行き一般車両の通行がもっとも多かった日で4900台であった。これは一般的な日と比較すれば約3倍の通行量である。

▶この状況に鑑み、現在当局はチェックポイント施設の増改築を行っており、2月1日に試験利用が行われたところである。

### ◆バルカン地域での汎ヨーロッパ運輸回廊建設に300億ユーロの資金が必要

▶26日にロンドンで開催された欧州復興開発銀行（EBRD）主催第3回西バルカン投資サミットに出席したボリスフ首相は、地域における汎ヨーロッパ運輸回廊（4号、8号及び10号線）の建設に300億ユーロ、デジタルインフラの建設に50億ユーロが必要であるとの認識を示し、これらの建設が終了すれば各国の首都が電車、高速道路、インターネットにより接続されるようになる」と発言した。建設には7年から8年程度かかるというのが現実的であろうとの認識を併せて示した。

▶サミット会合後の記者会見で、ボリスフ首相はベレネ原発の建設についても発言し、同原発はバルカン共通プロジェクトとしてEU基金により建設する可能性があり得るとの認識を示し、ベレネ原発は地域のエネルギー連結性にも寄与するとの考えを表明した。また天然ガスの輸送インフラや

バルカン・ガスハブ計画についても進捗状況を説明した。

### (3) その他

#### ◆タバコの違法取引

▶2日の報道によれば、ブルガリア市場経済研究所の分析により、2007年から10年の間にブルガリアで違法に取引されているタバコによって、犯罪組織は25億から35億レヴァの収入を得ていることが明らかとなった。本件レポートでは、長期的視点の欠けた課税政策により、健康面と税収面の政策目的が達成されないとしており、また急激な物品税の上昇も違法貿易増加に繋がりとした。

▶ブルガリアのタバコ市場においては2007年には11.2%が違法取引のタバコであったが、2010年までにこの割合は30.7%に増加しており、毎年4.5億から6.4億レヴァ程度の違法収入に繋がっているとしている。その後違法取引市場は縮小しているものの、違法収入は引き続き大きく、2016年には100万本の違法取引タバコにより1.2億から1.7億レヴァ程度の違法収入に繋がった。これらの違法タバコはブルガリアで生産されたものもあり、国境を監視するだけでは違法取引の監視として効果的でないことも分析されている。

#### ◆ブルガリアのアウトソース産業

▶6日、ソフィア市民営化・投資庁及びブルガリア・アウトソース産業協会による報道発表によれば、2016年にはアウトソース産業は、ブルガリアのGDPの3.6%に該当する15億ユーロを生み出しているとの分析を明らかにした。

▶アウトソース産業は、2016年に納められた税金のうち1.5%に該当する税金を納めており、最も多くの税金を納めた産業となった。また同産業は昨年は4万8千人を雇用しており、2020年までには6万2500人の正社員が雇用されるとの見通しである。ビジネス・プロセスとITにおけるアウトソース企業380社のアンケートに

よれば、より技能の高い従業員を雇用することは困難となりつつあるとのことである。

#### ◆自動車産業は過去10年で4倍の成長

▶8日、自動車産業連合会が開催した会合に出席したカラニコロフ経済大臣の発言によれば、2017年の自動車産業における粗付加価値の3.6%は自動車産業によるものであり、過去10年で4倍となったと明らかにした。ブルガリアでは約130社が同産業に従事しており、3万人以上が雇用されているとのことである。同大臣は、自動車分野の輸出は2010年には60%の成長を見せ、14年及び15年も引き続き17%、16%の成長を続けているとしているが、効果的な経営のためには技術力のある労働者を育てる必要があるとした。

▶2018年には、プレブネリエフ前大統領とカラニコロフ経済大臣率いる代表団が、ブルガリアへの移転を促すべく欧州・非欧州の自動車製造企業を訪問する予定となっている。

#### ◆中国アリババ社が当地進出で協議中

▶12日の報道によれば、中国の電子商取引企業であるアリババ社が、プロブディフ市のトラキア経済地区に進出することで協議中である。昨年、アリババ社は欧州諸国への配送を行うロジスティックセンターを同地区に開設する予定との報道があったところである。

#### ◆ブルガリアのワイン輸出

▶14日、ボリソフ経済副大臣はワイン・スピリット研究所が催した聖トリフォン（ブドウ豊穡を祈願する日）のイベントに出席し、2017年1月～11月のブルガリアのワイン輸出は、昨年同期比に比べ6%増加し、3100万ユーロに達したことを明らかにしつつ、ブルガリアのワインは高品質で国際市場においても競争力のある価格となっているとした。

### ◆中小企業促進庁長官の交代

▶20日、カラニコロフ経済大臣は、カブリエラ・コザレヴァ氏を中小企業促進庁長官に任命した旨を発表した。マリエタ・ザハリエヴァ前長官は、2015年にルカルスキ前経済大臣に任命され、3年間の在任となった。

▶コザレヴァ長官は、10年間のビジネス・商法分野における管理及び専門家としての経験があり、

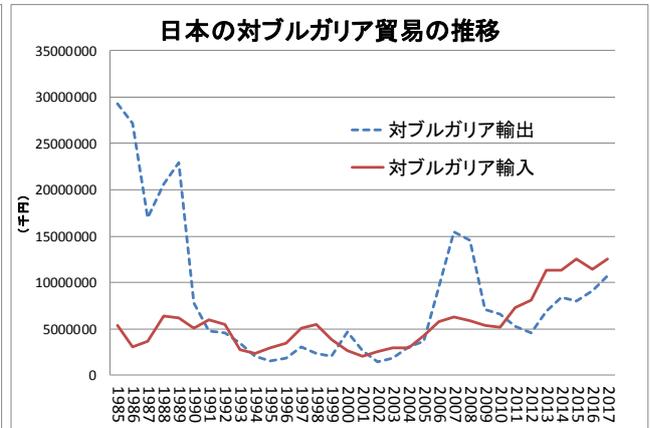
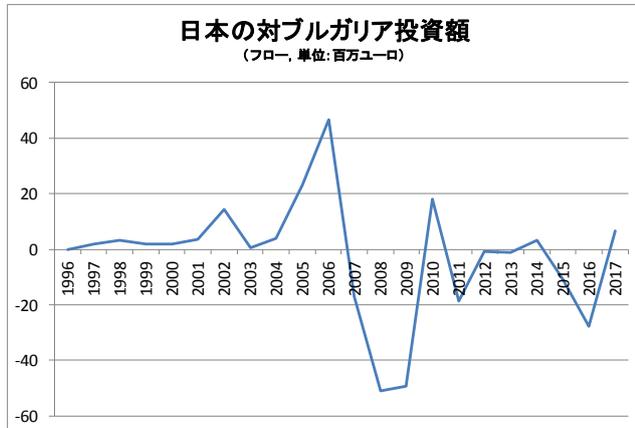
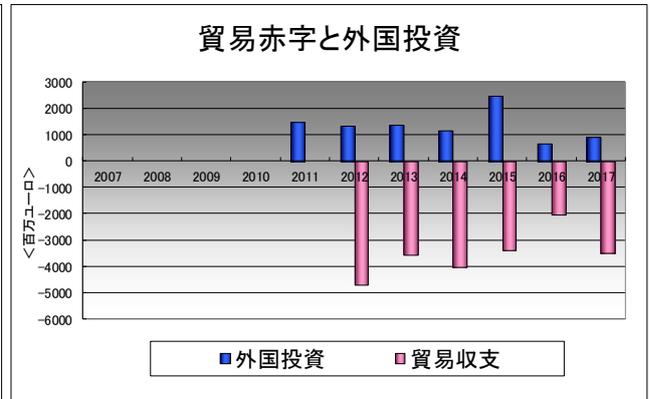
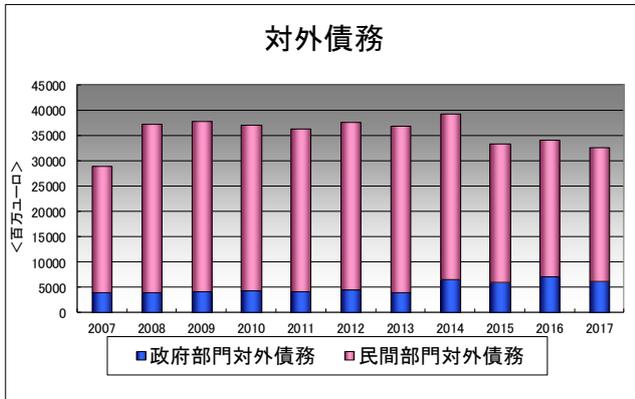
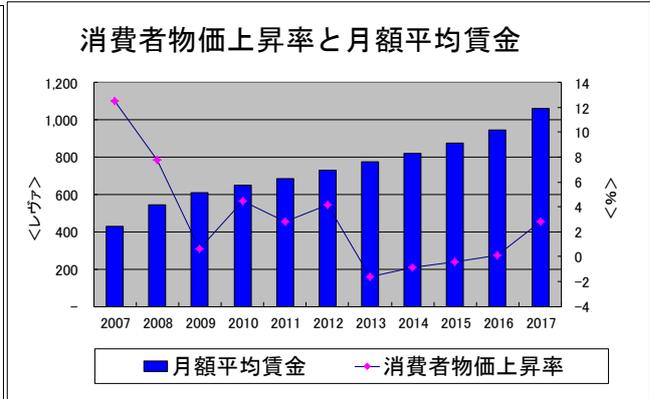
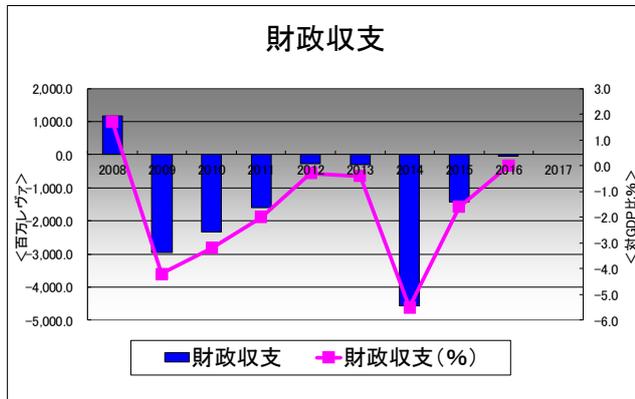
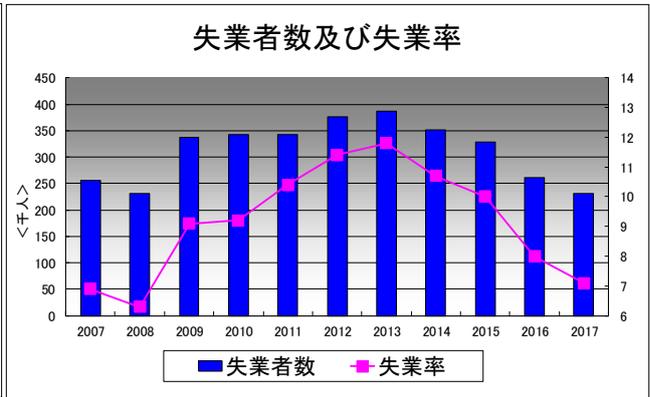
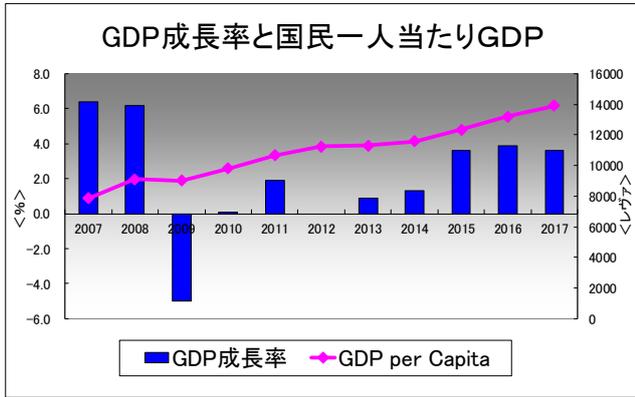
青年スポーツ省の局長を務めたあと、昨年5月からは同省副大臣として活躍していた。また自営によりビジネス・コンサルタント業を行っており、最高行政裁判所の法律アシスタントでもある。ソフィア大学法学修士課程卒。

## ブルガリア内政・外交の動き（2月）

在ブルガリア大使館

1（木）	☆ラデフ大統領のベルギー訪問
2（金）	
3（土）	
4（日）	
5（月）	★プレカ・マルタ大統領のブルガリア訪問
6（火）	★ルッテ蘭首相のブルガリア訪問
7（水）	
8（木）	
9（金）	
10（土）	
11（日）	
12（月）	☆ラデフ大統領のアルメニア訪問
13（火）	
14（水）	★ディミトロフ・マケドニア外務大臣のブルガリア訪問
15（木）	☆ラデフ大統領のマケドニア訪問（－16日） ☆ボリソフ首相のミュンヘン安全保障会合出席（－16日，於：ミュンヘン） ★EU非公式外務理事会（Gymnich）の開催（－16日） ★共通外交・安全保障政策及び共通保安防衛政策に関する議会間会議の開催（－17日）
16（金）	
17（土）	
18（日）	
19（月）	☆ドンチェフ副首相の訪日（－24日） ★コレイア・カーボヴェルデ首相のブルガリア訪問 ★オルバーン・ハンガリー首相のブルガリア訪問
20（火）	
21（水）	★ジュバイル・サウジアラビア外務大臣のブルガリア訪問
22（木）	
23（金）	★ブチッチ・セルビア大統領のブルガリア訪問
24（土）	
25（日）	
26（月）	
27（火）	
28（水）	★ザリーフ・イラン外務大臣のブルガリア訪問

# ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行，財務省（日本）貿易統計)



## ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

### < GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2017 Q1	Q2	Q3	Q4
GDP成長率 (%)	1.9	0.0	0.9	1.3	3.6	3.9	3.6	3.6	3.9	3.8	3.0
GDP per Capita (BGN)	10,673	11,229	11,310	11,577	12,339	13,206	13,884				

### < 財政収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2017 Q1	Q2	Q3
財政収支 (million BGN)	-1,589.7	-262.5	-296.3	-4,560.7	-1,420.7	-36.3		932	769.4	854.3
財政収支GDP比 (% of GDP)	-2.0	-0.3	-0.4	-5.5	-1.6	0.0		0.9	0.8	0.9

### < 失業者数及び失業率 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb
失業者数 (千人)	342	376	386	351	329	261	232	237	231
失業率 (%)	10.4	11.4	11.8	10.7	10.0	8.0	7.1	7.2	7.0

### < 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb
消費者物価上昇率 (%)(前期比)	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.1	2.8	0.3	0.3
月額平均賃金 (BGN)	686	731	775	822	878	948	1,060		

### < 対外債務 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2017 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
政府部門対外債務 (million EURO)	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	5,989.5	7,231.5	6,299.4	7,184.6	7,035.0	7,017.5	6,982.3	6,929.6	7,003.6	6,617.6	6,599.5	6,559.3	6,445.4	6,282.2	6,299.4
民間部門対外債務 (million EURO)	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,786.4	27,327.6	26,814.9	26,265.3	26,343.2	26,506.6	26,518.8	26,763.8	26,753.1	26,667.4	26,313.3	26,174.2	26,249.8	26,014.1	26,106.4	26,265.3

### < 対内直接投資と貿易収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan
対内直接投資 (million EURO)	1,476.3	1,320.9	1,383.7	1,160.9	2,475.9	660.0	901.9	
貿易収支(FOB-CIF) (million EURO)		-4,688.9	-3,556.6	-4,020.7	-3,374.3	-2,055.3	-3,503.6	-426.0
輸出(FOB) (million EURO)		20,770.2	22,271.5	22,104.9	22,982.3	24,126.0	26,706.3	2,153.1
輸入(CIF) (million EURO)		25,459.1	25,878.1	26,125.7	26,356.6	26,181.3	30,209.9	2,579.1